

令和5年度 自己評価書・学校関係評価書

令和6年3月25日

真庭市立北房こども園

園長 牧原美恵子 印

1. 北房こども園の教育保育目標

心身ともにたくましく心豊かな子どもの育成

- ・ 明るく元気な子ども
- ・ 友達と遊べる子ども
- ・ 考える子ども

2. 本年度の重点目標（課題）

- 安心して生活できる環境づくり
  - ・ 保育者との愛着関係、信頼関係を基盤とした一人一人の居場所づくり
  - ・ 個々の発達段階や経験等に配慮した基本的な生活習慣の確立
- 夢中になって遊びこめる環境づくり
  - ・ 個々の興味や関心に応じた遊びの環境づくり
  - ・ 体を動かす活動への園内環境の構成や園外環境の利用
- 様々な人と関わる環境づくり
  - ・ 異年齢児交流の充実
  - ・ 小中学校や地域、ボランティアの方との交流事業の実施
- 小学校への円滑な接続
  - ・ 小学校や関係機関との連携
- 家庭・地域とともに育てる
  - ・ 教育、保育活動についての積極的発信

### 3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	園の教育目標等を職員が共通理解し、園児の実態に即した計画を立案した。また、研究テーマに沿った保育に取り組んだ。	3	3
行事	園児の興味や育ちから、ねらいの達成のためにどのような取り組みができるか考えながら取り組んだ。	3	3
組織・運営	仕事の分担を適切に行い、協力、協働し合いながら担当業務にあたった。会議の時間や効率に課題がある。	3	3
学級経営	園児一人一人の発達を理解し、良さを認めて、自己発揮できる場をつくるよう努めた。	3	4
特別支援教育	園児の特性を理解し、保護者や小学校、関係機関と連携しながら、園児の状況に応じた支援をするよう努めた。	4	4
安全管理・保健指導	定期的な安全点検や様々な危険を想定しての避難訓練などを行った。関係機関からの派遣を受けて職員研修も行った。	3	3
研修（資質向上）	研修会への参加や復命等で研修内容を共有し、職員全体の資質向上に努めた。	3	3
情報提供・保護者・地域との連携	HP や便り等を通じて園児の活動の様子を発信した。ボランティアの方々の力を借りて行事を行うこともできた。	4	4
小学校との接続・連携	子ども同士や教職員間の交流、情報共有など、連携のための取り組みができた。	4	4
子育て支援	必要に応じて保護者や関係機関と連携し対応した。保護者がより相談しやすい環境づくりに努めたい。	3	3
食育の推進（給食）	調理員と保育教諭が連携し、栄養士の協力も得て、食育指導に取り組んだ。アレルギー食や離乳食などにも適切に対応した。	3	3
食事の提供（調理）	衛生面を徹底し、園児の実態に応じて、調理形態や量の調整を行い安全に提供した。	4	4

### 4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員)
挨拶の習慣化	集団生活の中で定着していくことを意識し、家庭と連携し、職員が手本となるよう心掛けた。	3	4
友達を大切にする	保育者が園児の気持ちを大切にしたり集団活動を取り入れたりすることで、友達を大切に作る気持ちが育つよう努めた。	4	4

## 5. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- ・園児一人一人の思いを受け止め、丁寧に関わることで、園児が安心して園生活を送れるように努めた。このことから評価委員からも基本的な生活習慣や挨拶が定着しているとの評価をいただけたと思う。不適切保育や虐待のニュースが絶えない中、職員の正しい言葉遣いや態度を含めた人権意識は今後もしっかりともたなければならない。
- ・遊びの環境について話し合い、個々の興味や学年の様子に応じた保育を心がけた。今後も遊びや生活の中で同年齢児だけでなく異年齢児とも自然と交流が広がっていく工夫が必要である。
- ・園内環境を活かす活動と共に園外にも積極的に出かけ、体を動かしたり自然と触れ合ったりする機会をもつようにした。職員自身の評価が低いことは、意識の高さの現れであるとのありがたい意見もいただいたが、今後の取り組みが課題であると考えている。
- ・小中学校との交流や地域学校協働活動の活用については、コロナが5類になったこともあり、活動の幅が大きく広がった。さつま芋の苗植え、芋ほり、コスモスの種まき、小中学校の先生方の保育体験、お正月遊び等多くの活動ができた。一つの学年だけの活動にならないよう、園全体として考えていきたい。
- ・教育、保育活動についての発信のために、新たに「こども園だより」を作成し、地域に回覧した。評価委員からは園の様子がよくわかるとの声をいただいた。さらに普段の生活の様子等を知ってもらえるよう、工夫が必要である。

## 6. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- ・今後も園児や保護者との信頼関係を大切にし、安心して園生活を送り、楽しんで活動できるようにと考えている。そのために、職員の丁寧な言葉遣いと態度を基本としながら、園児の思いや気持ちを大切にしたり行動を認めたりする保育を全職員で共有していきたい。
- ・遊びの環境においても育ちの保障とつながり、身体づくり等を考えながら丁寧に構成していきたい。特に体を動かす活動は後援会からいただいた運動遊具の活用や園外の環境をうまく取り入れ、楽しみながらできたらと考えている。
- ・小学校や地域との連携については、今年度の活動を土台にしながら、新たな活動も取り入れていきたい。また、職員間やカリキュラムでのつながりなどが具体的に進められるようにさらに連携を図りたい。
- ・園での生活や活動の様子を知ってもらうために、保護者との対面での会話を大切にしつつ、ホームページやコドモンの充実を図っていきたい。また、地域の方に向けてもホームページの紹介、こども園だよりの継続を行いたい。

学校評議員・園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である